

鈴鹿市立明生小学校

明生の旗高く

＜ 学校教育目標 ＞

地域とともに

明るく元気に生きる

明生の子

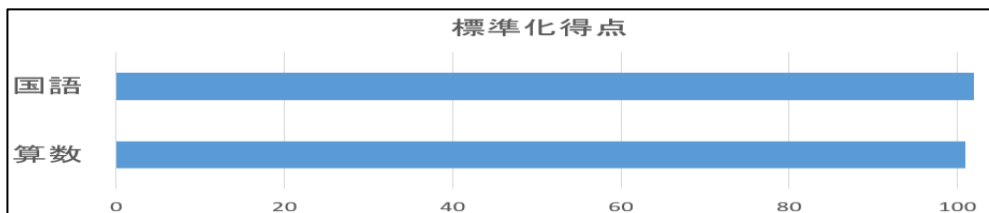
「学力・学習状況調査」の結果概要と今後の取組について

本年4月に6年生を対象に実施された「令和7年度全国学力・学習状況調査」の結果が文部科学省から公表されました。この調査は、児童の学力学習状況を把握し、授業や生活習慣の改善に役立てることを目的としています。

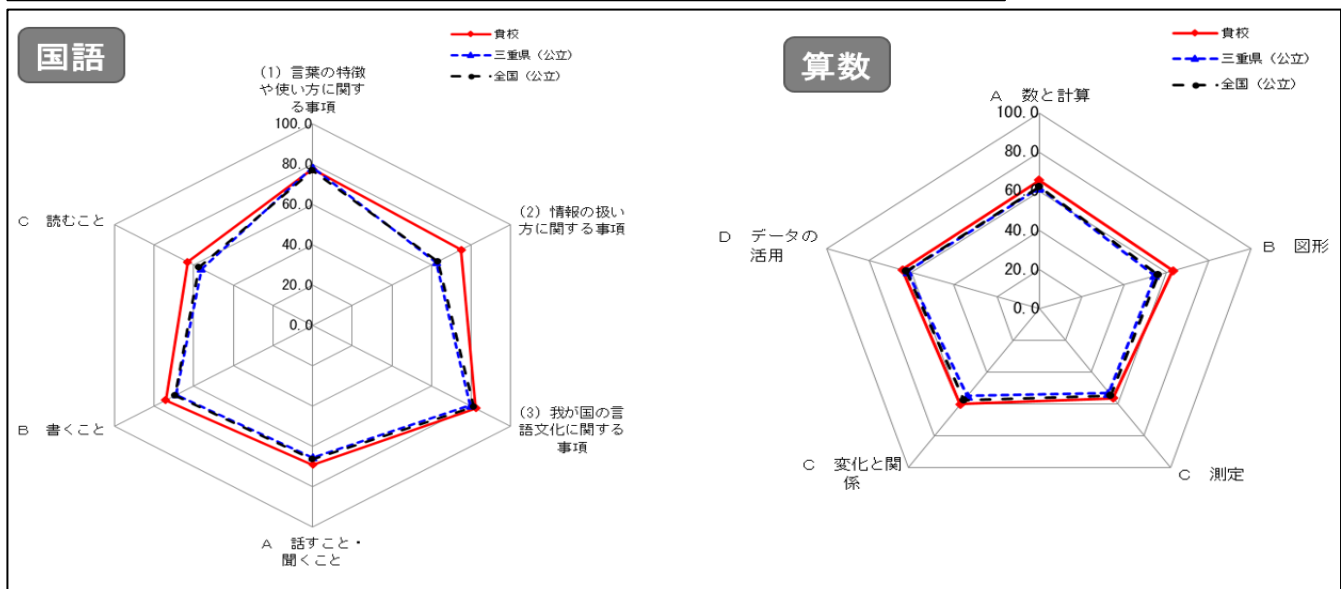
本校では、実施終了後、全教員で解答を採点し、結果を分析し、今後の授業改善にいかしています。解答用紙からは、記述式の文章で説明する問題でも、子どもたちが諦めずに最後まで解答しようとするがんばりが感じられました。また、第3回学校運営協議会でも調査結果をお伝えし、ご意見をいただきました。今後は、成果や課題を学校・家庭・地域で共有し、取組をさらに充実していきたいと思ひます。

1 各教科の調査結果から

各教科の平均正答率の差は全国比で下記の通りであり、国語・算数ともに全国平均を上回ることができました。



※標準化得点とは
全国平均が100、標準偏差が10となるよう標準化された得点



各教科を領域別に見ても、特に苦手としているところもなく、国や県を少し上回る結果となっています。また、三教科とも無回答率が低く、子どもたちが一生懸命問題に取り組んだことが表れています。

① 国語では

○「【話し合いの記録】の書き表し方を説明したものとして適切なものを選択する」「【インタビューの様子の一部】で小森さんが傍線部アのように発言した目的として適切なものを選択する」設問が優れていた。

●「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる」設問に

さくねんどうよう かだい
昨年度同様に課題がみられた。

② 算数では

○「基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる」設問を始め4問で全国平均を10ポイント以上上回っていた。

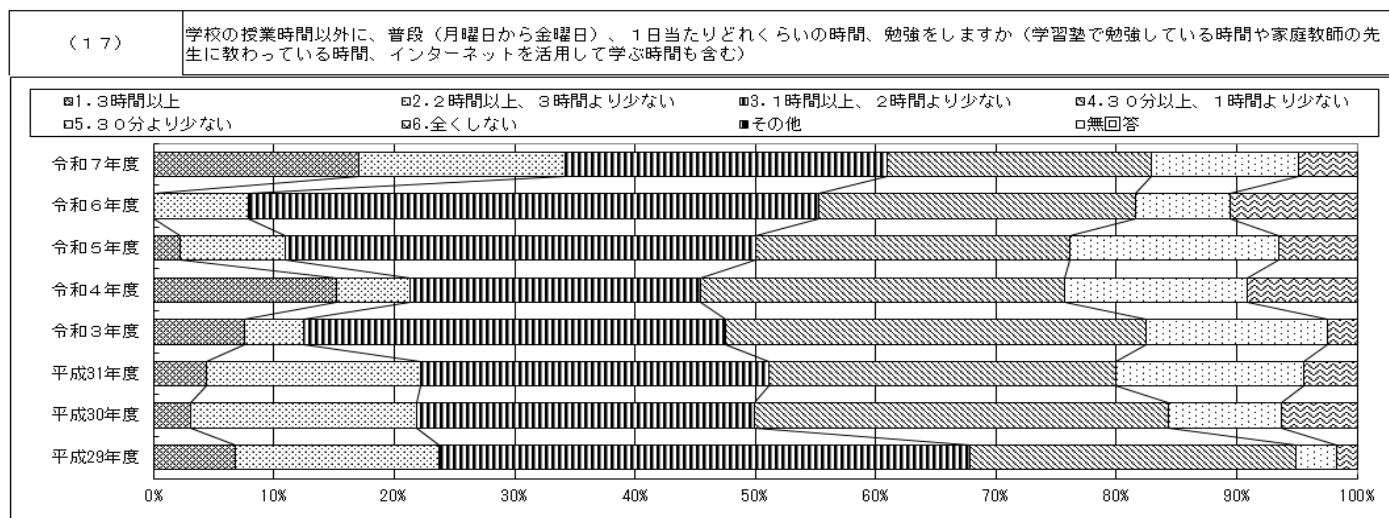
●全国平均を下回ったのは2問であったが特に「示された資料から、必要な情報を選び、数量の関係式に表し、計算することができるかどうかをみる」設問は10ポイント以上の差であった。

③ 回答形式では

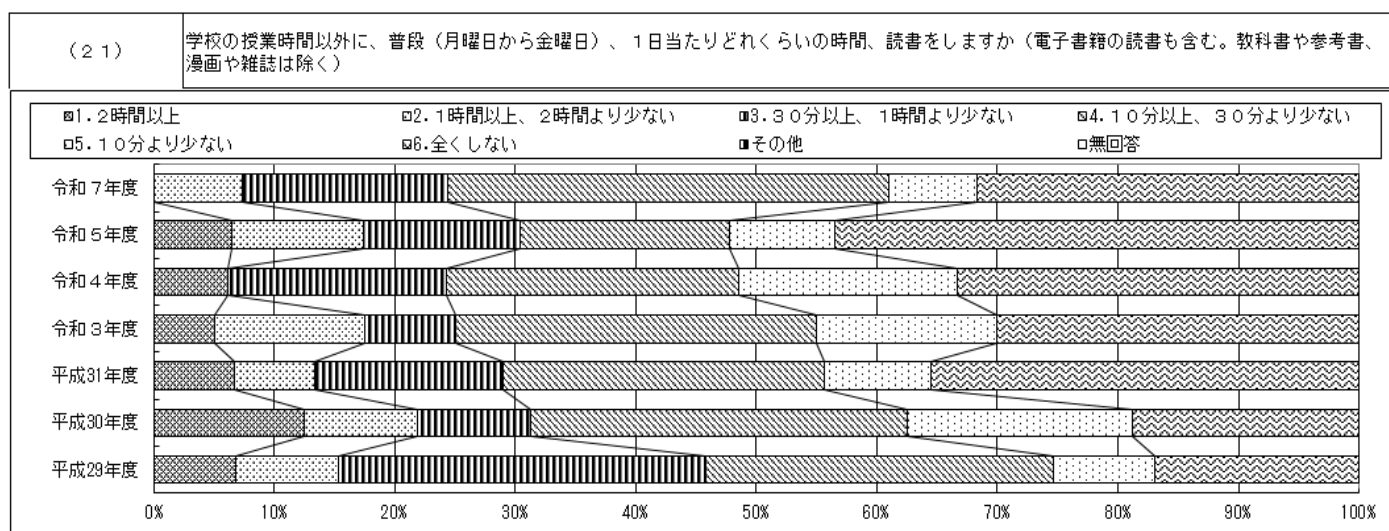
「選択式」「短答式」「記述式」の回答形式による差はみられなかった。

2 児童生徒質問紙から

生活習慣は比較的良好でしたが、「朝食の喫食率」「決まった時刻の就寝・起床」では「朝食の喫食率」と「就寝時刻」で改善が必要な児童が少し見られました。



学習習慣もよく定着していて「全くしない」は約5%でした。一方「休みの日の家庭学習」は比較的短くなっていて、メリハリのある学習習慣であると言えます。



「読書が好き」と約8割の児童が回答しているが、読書時間が短く「10分より短い」児童が約4割というのは改善してほしいと思います。

3 今後の取り組み

6年生の「全国学力・学習状況調査」と4、5年生の「みえスタディ・チェック」の結果を夏季休業中に教員で分析し、二学期以降の授業について研修を行いました。子どもたちの学力向上に向けて取り組んでいきます。